

知的障害児の防災教育に関する実践研究

小野 貴史
特別支援科学コース

1. はじめに

平成 29 年・30 年公示の学習指導要領の改訂では、「防災を含む安全に関する教育」の内容がこれまでよりも多く記述され、学校における防災教育の充実、推進が求められている。これらを受け、特別支援学校でも、避難訓練の方法を工夫したり、防災教育の年間計画を立てたりできるようになってきた(和田ほか 2016)。しかし、全般的に見ると防災については避難訓練の要素がまだ強く、防災に関する知識をもとに避難行動を自ら考えたり、学校以外の場面で知識を適用したりする汎用的能力の育成など、様々な力を総合した「防災力」については検討されることが少なかった。このように、特別支援学校での防災教育の実践報告はまだ少ないのが現状であり、教育課程への位置づけや教材の分析が十分にできているとは言い難い。

そこで本研究では、知的障害特別支援学校における防災教育の授業実践を通して、教科内で行う防災教育と生活単元学習で行う防災教育の関係性や教材開発を行い、防災教育に関する汎用性(汎用的能力)を身に付けるための方法について検討することを目的とした。

2. 研究の方法

研究の方法としては、学習指導要領の分析をした上で、防災教育の授業を実践し、以下の視点から検討した。①特別支援学校学習指導要領のなかにある防災に関する内容を整理し、防災教育に求められている内容を明らかにした。②防災に関して児童生徒に身に付けさせたい力を明確にする。③知的障害特別支援学校における実践的な防災教育の在り方や有効な授業方法について検討した。

3. 研究の概要

第 1 章 知的障害児に対する防災教育の枠組み—学習指導要領の内容の検討—

(1) 学習指導要領の歴史的な流れ

昭和 22 年から昭和 52・53 年改訂の学習指導要領まで防災教育に関する内容が削減されてきた。その後、平成 7 年に阪神淡路大震災をきっかけにして、防災教育が注目され、平成 10・11 年の学習指導要領改訂では、削減されていた防災教育の内容が再び取り上げられるようになった。

(2) 学習指導要領における防災教育の内容

防災教育に関する内容は、平成 21 年改訂の特別支援学校学習指導要領では、小学部・生活科、中学部・社会、中学部・理科に記載されていた。そして、平成 29 年改訂の特別支援学校学習指導要領では、小学部・生活科、中学部・社会、中学部・理科に記載され、職業・家庭科、保健体育科にも広がっていた。

第 2 章 知的障害児に対する防災教育の授業づくり

(1) 全国の学校での防災教育の授業実践例

全国での授業実践例として、防災や SDGs を「自分事」として考え、自らの行動に結びつけていく

ための防災教育教材としてのボードゲームである「Bousai SDGs すごろく」を活用した実践(木村, 前林, 2020)などがあった。また, 此松は, 「自然理解」「想像力」「対応能力」を防災教育のキーワードを挙げ, 対応能力を避難行動だとすると, そのために必要なことは想像力であり, 自分の周辺で発生することをイメージする力が重要であると指摘した(此松, 2015)。

(2) 茨城大学教育学部附属特別支援学校での授業の立案と計画

先行研究を参考にして, 中学部生徒を対象にした防災教育の授業を行った。その結果, 防災に関する言葉とその意味を理解しているにも関わらず, 緊急時の避難行動に結びついている生徒と結びついていない生徒がいることが分かった。具体的には, 避難訓練で経験した内容におおよそ適切に答えられるが, 津波など, 普段から考えさせていない内容の質問には災害の状況がイメージできていない様子が見られた。これは, 特別支援学校で身に付けてきた避難行動は, 特定の災害における避難行動であり, その応用は難しいものであったからではないかと考えた。以上の実態把握を受けて, 生徒が地震以外の災害についてどの程度理解をしているのか実態調査をしたところ, 災害の名称, 意味など全項目で地震に対する理解が最も高く, 生徒にとっての「災害」のイメージは地震に偏ったものであることが分かった。

(3) 授業の実践と生徒の学び

この結果を受けて, 実践した授業の内容は地震を中心にしつつ, これまで防災教育で取り上げてこなかった内容を多く含めて構成した。授業は, 「地震はどうして起きるの?」, 「緊急地震速報ってなに?」, 「こんなときどうする?—災害時の行動・防災グッズについて—」の全3回4時間を実施した。全授業を通して, 災害時の対応や避難行動については考えることができる生徒が多い傾向にあった。この点に関しては, 学校生活での避難訓練など訓練的な学習が関係しているのではないかと考える。

一方で, 「なぜこのような行動を取るべきか」など「なぜ」という部分を考える思考は弱い傾向が見られた。この点に関しては, 特別支援学校では理科や社会科などの知識を学ぶ機会が少なく, 自然や社会についての基本的な知識が乏しく, 予測を立てることが難しいことが原因ではないかと考えた。しかし, 本授業を通して, 「地震が起きるのは自然のきまり」と考えていた生徒が, プレートを表した模型を使って地震のメカニズムを学んだことで「地震が起きるのはプレートが我慢できなくなったから」と発言したり, 防災グッズや避難所について名称程度しか理解していなかった生徒が体験的な学習をしたことで「避難所はみんなで過ごす場所である」という認識をもち始めた。また, 授業の中で, 知り得た知識をもとに状況を想像しながら考えるような学びが見られたことから, 知的障害児においても, 「自ら判断して避難行動ができる」力を身に付けることができると考えた。

4. まとめと考察

本研究から, 知的障害児に対する防災教育の今後の在り方としては, 各教科の内容を深く学ぶことと, 体験的な学習を融合することが必要であると考えた。

特に単に避難行動のみを学習するのではなく, 理科や社会科など教科の学びを通して様々な知識や理解を身につけることで, 他の生活場面にも汎用的に活用できる能力が身につくのではないかと考えた。